

京都のつばさ

日本航空の不当解雇撤回勝利をめざす京都共闘会議

第 29 号

2016 年 2 月 18 日
京都府京都市中京区壬生仙念
町 30-2 ラポール京都 5F
京都総評気付
TEL075-801-2308
F A X075-812-4149
E-mail:sinamu2002@yahoo.co.jp

本日！労働争議支援 2016 年春京都総行動 ご支援を！

市民の皆さん！資本の法を無視するなりふりかまわぬ攻撃の中で、働く者の権利と生活を守るために、必死になって闘っている仲間がいます。不当解雇や労働者への権利侵害、不当労働行為と闘い、労働者・家族の生活を守るため闘い抜いています。(写真：本日 13:06 稲盛財団)



現代企業の三悪人・・・アメーバ経営方式で世界の空が危険！ 稲盛和夫さんの経営「哲学」とは

JAL「再生」の「経営の神様」である京セラの稲盛和夫名誉会長は、演歌が大好きで、クラシック嫌い（伊部四郎著『京セラ血塗られたバランスシート』山手書房、85年・・・稲盛の十八番は愛馬行進曲・・・労働者は馬なのだ！）、光りもの好き（毛むくじらの指に京セラ人口宝石：クレサンベールつけて稲盛会長以下役員全員が87年の総評全国一般神奈川の川崎工場廃止・全員解雇争議の団体交渉に出てきたのには、会場の京都のホテルで筆者はたいへん驚いた）。

<現代企業の三悪人>

（裏に続く）

評論家の鎌田慧氏は「児玉誉士夫、小佐野賢治、笹川良一の戦後三大怪物」(『京セラ その光と影—稲盛イズムの秘密』土方美雄著、れんが書房、88年)の時代が終わり、「現代の経営者の三大悪人といえば、来島どっくの坪内寿夫、リクルートの江副浩正、そして京セラの稲盛和夫」(同前)とのこと。そこでひとり生き残り、「ノーベル賞もどきの『京都賞』や第二電電の冠のもとで虚勢を張り、勲章欲しさにカネをばらまいている笹川オジサンと好一对をなしている。」(同前)のが稲盛和夫氏だった。

＜165人首切りの真の目的とは＞

裸の王様という話がある。前記土方著のためのシンポジウムを京都商工会議所ホールで京都総評支援共闘が全面バックアップして87年秋に開催した際、樋田劭京都精華大学教員に講演をお願いした。氏はわざわざ京セラ本社まで足を運んで、社内報など読破され(京セラ本社では樋田氏について資料を出さなかったのだが)、講演されたが、「稲盛哲学を批判せよということだが、どう読んでも哲学がないのである」「哲学になっていない」と述べられた。

稲盛 JAL 会長(当時)が2010年大みそかにベテランパイロット・CA165人を会社再建を口実に解雇した真の意図は、巷間言われている“闘う労組つぶし”だけではない。それは、裸の王様に正しいことをいう子どもを追い出したかったのである。それがなければ JAL 再生を果たした経営の神様・稲盛経営「哲学」は完結しなかったのである。165人は有能な労組活動家であるばかりでなく、多くはまやかしのカルト教団にはそまらない科学的な世界観を持った人々だ。「稲盛フィロソフィなんてお笑い種の、労働者の労働しぼりとりのみやかしだ」「あなたは裸の王様だ」と言い切る人間を、JAL 社内に置いておくことは決してできなかったのである。論より証拠に、165人を年末で追い出すや否や「JAL フィロソフィー」を明けて11年1月に制定し、手帳にして翌月に発行した。

その「成果」が、約半年後に発生したアメーバ経営方式(部署ごとの採算競争)による、国際線ジェット燃料費20万円節約のための、台風雲つきり事件(航空機の安全のため当然迂回すべきだが、燃料費がかかるため)であった。

＜稲盛和夫さんの真の構想＞

稲盛氏は盛和塾なる信者組織を作らせ自ら塾頭として、世界中に支部を作って世界大会まで開催する。自ら「JAL フィロソフィーを皆のバイブルとしてきちんと見ていきましょうね」(『JAL 再生』引頭麻美著、日経新聞社、86頁)と語る。敬虔なキリスト教徒にははなはだ迷惑な話だが、私が「カルトだ」「新興宗教だ」と言っているのではなく、「バイブル」と自称している。

精神科医の斎藤環氏はヤンキーはサッカー好きという(『ヤンキーと精神分析』斎藤著、12年、角川書店)。サッカーJリーグ発足と同時に、暴走族が全国的に壊滅したという。私は昨年6月京セラ株主総会で、原稿三行読み上げただけで京セラ社員たちに羽交い絞めされ退出させられた。が、続いて「会社事業説明会」があり、追い出された廊下でテレビを見ていたら、ある株主から「(京セラが全面支援している)パープルサンガどうにかならんのか(負けてばかりということ)！一生懸命やってんのは名誉会長(稲盛和夫)だけちゃうか！他の役員ももう少しまじめに応援せい！！」との発言。JAL 争議団員の株主には正式総会が終わっても、「会社事業と関係ないことは困る。長い」とか言っておきながら、こういう発言は野放しだった。パープルサンガ命が稲盛和夫氏の真骨頂。

斎藤環氏は天皇好きにヤンキー好きが多いと言う(前掲著)。「経営の神様」で飽き足らず、こともあろうに稲盛は「京都再生」を口実に、天皇を京都に呼び戻そうとしているのである(土方前掲書、京都労金谷内口浩二理事長<当時>インタビュー)。そのための伏線としての一人五千万円も授与する京都賞であった(単に稲盛の相続税対策の稲盛財団設立ということだけではなく)。

鎌田氏は前掲書で言う。「造船不況の中からたちあられた『前近代のモンスター』ともいえる坪内式乗取りと労働者支配は・・・あまりにも急速な拡大によって自滅の方向にある。坪内が侵入した佐世保重工での同盟系労組の長期スト、自殺者と労災事故の多発は彼の自滅の前兆でもあった」と。JAL 闘争団と闘う労組、全国の支援共闘・支える会の闘いのうねりが今や、稲盛和夫の自滅の前兆を示しつつある。

(稲村守：JAL 闘争の勝利をめざす京都共闘会議事務局次長)